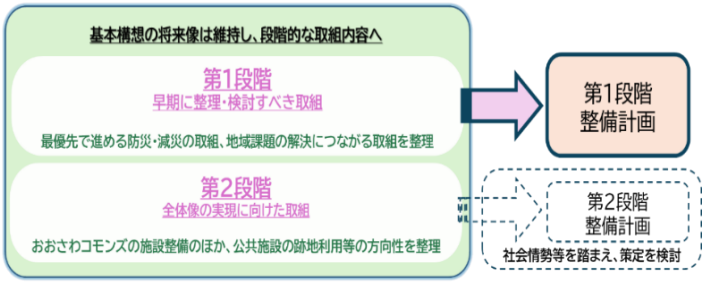
国立天文台周辺のまちづくりについて

1　見直しの方向性

土地利用基本構想で示す将来像は維持しながら、段階的に取組を進めます。まずは、防災・減災の取組を最優先とし、地域課題の解決につながる取組を「第１段階」として実現を目指します。また、「おおさわコモンズ」の学校を含む施設整備や将来的な公共施設の跡地利用などについては「第２段階」に位置付けます。これにより、事業を分散化して費用の支出時期の平準化等を検討します。



実施内容や時期等を整理する土地利用整備計画を段階的に策定

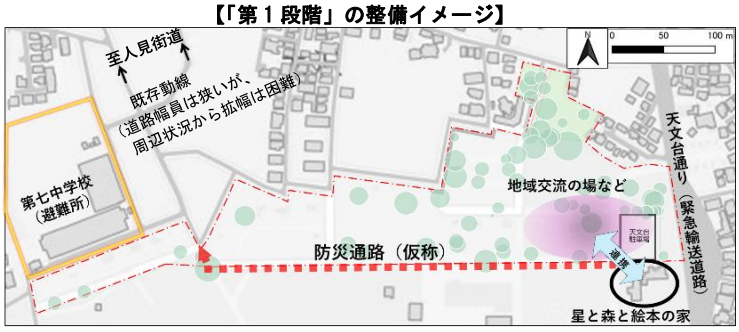
2　国立天文台周辺まちづくりの進め方

(1)　「第１段階」・・・最優先で進める防災・減災の取組（案）

国立天文台敷地北側ゾーンの既存通路を活用させていただき、天文台通り（緊急輸送道路）から第七中学校（避難所）へアクセスできる一連の動線を確保し、風水害時の車両避難や震災時等の災害対策車両等の進入が可能となるよう検討します。また、その動線に隣接する位置に、防災機能に加えて平常時の地域交流の場や子どもたちの居場所を検討します。

今後、国立天文台と調整を図り、地域住民の方々との意見交換などを行いながら、「第１段階」における土地利用整備計画の中で整理していきます。

【「第１段階」の整備イメージ】

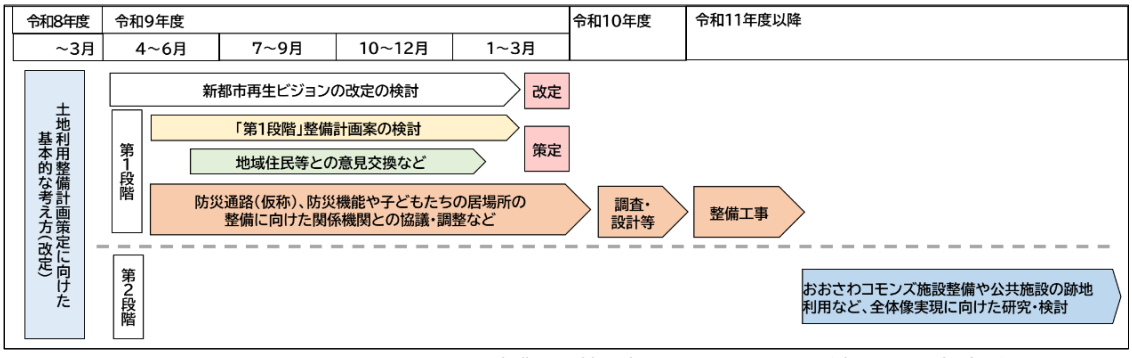


※ 現時点での市の方向性を示すもので、今後、国立天文台との調整等により、内容等が変更になる場合があります。

(2)　「第２段階」の取組・・・地域の共有地「おおさわコモンズ」の創出（案）

地域の共有地となる「おおさわコモンズ」の創出については、社会経済情勢や他のプロジェクトの進捗状況等を踏まえながら、引き続き検討を進めます。また、買物不便環境の解消や一時避難場所機能の継続など、地域のまちづくりについても、「第２段階」の土地利用整備計画の中で検討を進めます。

3　今後のスケジュールについて（想定）



※ 事業の進捗に応じて、スケジュールが変更になる場合があります。